

宮崎県児湯地域におけるAD, PRRSフリー（ハイヘルス）地域の構築への取り組み

志賀 明（有限会社シガスワインクリニック）

Shiga, A. Challenge to High-Health Pig Farm in Koyu area in Miyazaki Prefecture after Foot-and-Mouth Disease Outbreak in 2010

All about SWINE 41, 42-43

2010年4月に宮崎県で発生した口蹄疫は、29万頭の牛、豚の犠牲と全国からの多くの方々のご支援のおかげで同年8月27日に終息した。宮崎県の児湯地域は、この口蹄疫発生で全ての牛、豚を殺処分された。その後、被害にあった養豚農場を中心に、終息前の8月19日に生産者が主体で殺処分された全ての養豚農場を対象とした行政区を超えた西都児湯新生養豚プロジェクト協議会（協議会）が設立された。この協議会の目標は地域ぐるみのハイヘルス養豚の実現を目指すことであり、長年清浄化に取り組んできたオーエスキー病（AD）ともっとも被害が大きいとされている豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）がフリーで、病気の発生が少ない、安心・安全な豚肉を生産する地域を目指している。

導入再開までの具体的な活動として、ADおよびPRRS陰性の種豚候補豚を供給できる種豚会社8社によるプレゼンテーションの開催や、地域で取り組むハイヘルス養豚のメリット、取り組みの意義、経済的な有利性等を理解してもらうためのセミナーの開催などが行われた。また、協議会ではADおよびPRRS陰性の種豚導入先や肥育用素豚導入先の選定などを協議した。このうち、肥育

農場は地域外の農場とのつながりがあった農場もあり、これらの農場に対しては供給元となる地域内外のAD、PRRS陰性素豚の供給可能な農場の選定を検討してきた。また、供給元の農場や担当獣医師からの衛生状況を確認することや、各市町の自衛防疫推進協議会（自衛防）への導入計画書の提出や、初回導入開始までに農場の衛生状況のチェックをその農場の管理獣医師が家畜保健衛生所（家保）の獣医師により実施することとした。

導入後は、導入届と供給元の検査データを各自衛防への提出を義務付け、口蹄疫のチェックのための初回導入豚群の目視検査が導入後2週を目安に家畜防疫員により実施された。また、ADとPRRS対象の導入後の着地検査のための採血を導入3週以降に管理獣医師、家保により実施している。この検査は家保で行われているが、2011年1月に宮崎県下で発生した高病原性鳥インフルエンザの影響で家保による検査が一時滞ってしまった。この期間は管理獣医師により採血された検体を民間検査機関に依頼して検査を補完した。

一方、ADの抗体検査はエライザにより行われ、非特異陽性を示した場合はgI抗体検査とラテックス凝集反応により陰性確認を行っている。

PRRS の抗体検査もエライザにより行われ、非特異陽性検体は PCR 検査と間接蛍光抗体法（IFA）により陰性確認を行っている。IFA は当初は家保では行われていなかったため、動物衛生研究所に検査協力してもらっていたが、2011 年 4 月より家保で検査が可能になった。

さらに、現在は再開農場の AD および PRRS のモニタリング検査を年 2 回実施することとし、農場ごとの管理獣医師、家保による採血と検査を実施している。また、人工授精用精液の流通に関するルール作りとチェック体制作りもその概要が出来上がっており、早期の実施を検討している。また、協議会では疾病発生状況の共有化を目指しており、これは地域における防疫体制のより一層の改善、強化につながるものと考えている。

現在の地域の衛生状況は、残念ながらごく一部の農場に PRRS 侵入が確認され、侵入原因の究明と対象農場清浄化に向けた取り組みが協議会と家保、行政により行われている。この限られた地域

以外の農場では AD および PRRS の侵入は確認されておらず、地域の大部分はハイヘルス状況を維持している。

協議会は、口蹄疫発生で全ての豚を失った大きなマイナスを、逆に全ての疾病がゼロとなったこととして捉え、これを最初で最後のチャンスに転じていきたいと考えている。さらに、これらの種々の取り組みによって、地域ぐるみのハイヘルス養豚を実践していくことこそが個々の養豚農場の存続への近道であり、地域の再生を可能にできるものと信じている。

現在、地域の養豚再開からほぼ 2 年が経過し、協議会メンバーはハイヘルス養豚による生産性の向上などの大きなメリットを実感し、この取り組みの有効性を共有できているものと思われる。今後もさまざまな問題点が立ちふさがってくるものと考えているが、協議会とその関係者、行政が一体となり難題を乗り越えて、全国一のハイヘルス養豚地域を目指していきたい。